



山形県感染症発生動向調査

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)

TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486

URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>

2016年10月4日 発行

平成28年第39週(9月26日～10月2日)

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※ :警報レベル

 :注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第38週	第38週	第39週	増減	第38週	第39週	増減	第38週	第39週	増減	第38週	第39週	増減	第38週	第39週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(47)			(20)			(5)			(10)			(12)			
インフルエンザ	569 0.12																13930
小児科定点 (定点医療機関数)		(29)			(13)			(3)			(6)			(7)			
RSウイルス感染症	4204 1.34	87 3.00	101 3.48	▲	43 3.58	43 3.31	▼	1 0.33	7 2.33	▲	43 7.17	49 8.17	▲		2 0.29	▲	514
咽頭結膜熱	777 0.25	3 0.10	2 0.07	▽	1 0.08	1 0.08		1 0.33		▽	1 0.17	1 0.17					634
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3771 1.2	65 2.24	76 2.62	▲	37 3.08	49 3.77	▲	2 0.67		▽	24 4.00	22 3.67	▽	2 0.25	5 0.71	▲	5523
感染性胃腸炎	9247 2.94	42 1.45	55 1.90	▲	14 1.17	20 1.54	▲	1 0.33	1 0.33		17 2.83	22 3.67	▲	10 1.25	12 1.71	▲	6824
水痘	805 0.26	2 0.07	7 0.24	▲	2 0.17	4 0.31	▲								3 0.43	▲	390
手足口病	2471 0.79	11 0.38	20 0.69	▲	5 0.42	13 1.00	▲	1 0.33		▽	3 0.50	5 0.83	▲	2 0.25	2 0.29	▲	293
伝染性紅斑	312 0.1	3 0.10	2 0.07	▽	1 0.08		▽				1 0.17	1 0.17		1 0.13	1 0.14	▲	1450
突発性発しん	1375 0.44	12 0.41	14 0.48	▲	3 0.25	2 0.15	▽	1 0.33	3 1.00	▲	2 0.33	5 0.83	▲	6 0.75	4 0.57	▼	752
百日咳	50 0.02		1 0.03	▲		1 0.08	▲										15
ヘルパンギーナ	2756 0.88	111 3.83	153 5.28	▲	32 2.67	57 4.38	▲	2 0.67	10 3.33	▲	46 7.67	59 9.83	▲	31 3.88	27 3.86	▼	2650
流行性耳下腺炎	2936 0.94	33 1.14	61 2.10	▲	10 0.83	15 1.15	▲	5 1.67	3 1.00	▼	18 3.00	41 6.83	▲		2 0.29	▲	2359
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	9 0.01		1 0.13	▲											1 0.50	▲	1
流行性角結膜炎	573 0.83		1 0.13	▲		1 0.25	▲										55
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5 0.01																18
クラミジア肺炎	7 0.01																4
マイコプラズマ肺炎	399 0.84	1 0.10	2 0.20	▲	1 0.25	2 0.50	▲										100
細菌性髄膜炎	12 0.03																6
無菌性髄膜炎	34 0.07		1 0.10	▲											1 0.33	▲	11

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者			1		
	無症状病原体保有者	1				
アメーバ赤痢	患者				1	

<通信欄>

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ															
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79	80歳～									合計
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	7	20	37	18	8	4	4	2	1						101
咽頭結膜熱	1	1													2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			5	6	4	10	6	5	8	5	7	16	2	2	76
感染性胃腸炎	2	5	8	5	4	7	5	3	3	2	4	5	1	1	55
水痘			2			2		1	1		1				7
手足口病		3	2	4	3	3	2	1	2						20
伝染性紅斑		1	1												2
突発性発しん		7	6	1											14
百日咳												1			1
ヘルパンギーナ	2	12	43	36	28	10	6	7	3	2	1	3			153
流行性耳下腺炎			4	4	5	10	10	10	5	6	2	4		1	61

<平成28年8月 月報>

2016年9月21日 更新

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～8月
	7月	8月	7月	8月	7月	8月	7月	8月	7月	8月	
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
性器クラミジア感染症	報告数 23 定点当り 2.30	14 1.40	11 2.75	3 0.75	6 6.00	7 7.00	4 2.00	1 0.50	2 0.67	3 1.00	151
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数 6 定点当り 0.60	8 0.80		3 0.75	1 1.00	1 1.00	4 2.00	3 1.50	1 0.33	1 0.33	49
尖圭コンジローマ	報告数 2 定点当り 0.20	2 0.20	1 0.25	1 0.25					1 0.33	1 0.33	22
淋菌感染症	報告数 1 定点当り 0.10	2 0.20							1 0.33	2 0.67	14
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数 3 定点当り 0.30	8 0.80		1 0.25			1 0.50		2 0.67	7 2.33	49
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数 11 定点当り 1.10	16 1.60	6 1.50	6 1.50		1 1.00			5 1.67	9 3.00	138
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数 定点当り										

<トピックス>

【RSウイルス感染症情報】

RSウイルス感染症の県全体の定点当たり報告数が、過去5年間に比べて高いレベルで推移しています。

今後の動向に注意し、感染予防に努めましょう。

RSウイルス感染症とは

RSウイルスの感染による呼吸器の感染症で、秋から冬にかけて流行します。2歳までには、ほぼすべての乳幼児が感染するとされています。

【症状】

潜伏期間は2～8日で、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。初めて感染した場合は重くなるといわれており、特に乳児期早期(生後数週間～数ヶ月間)にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

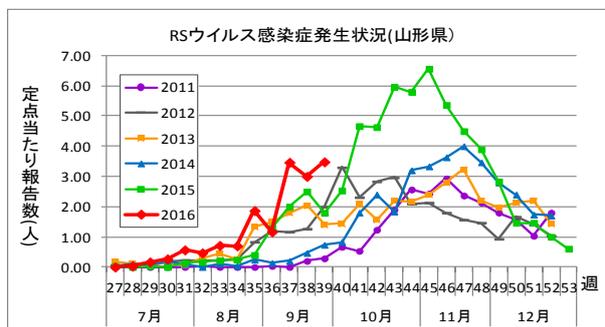
【予防法】

咳やくしゃみなどの飛沫感染、感染者との直接の濃厚接触、ウイルスが付着した手指や物を介した間接的な接触で感染します。

マスクの着用、子供たちが日常触れるおもちゃ、手すり等はアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、うがい手洗いをこまめに行うことが大切です。

(参考URL : 厚生労働省 RSウイルス感染症Q&A

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html)



【ヘルパンギーナ情報】

第39週のヘルパンギーナの県全体の定点当たり報告数は、引き続き警報レベルとなっています。

第39週 定点当たり報告数	県平均:5.3人
村山地区:4.4人	最上地区:3.3人
置賜地区:9.8人	庄内地区:3.9人
【警報開始基準値:6人 警報終息基準値:2人】	

ヘルパンギーナとは

発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス感染症です。

【症状】

2～4日の潜伏期の後、突然の38～40℃の発熱が1～3日間続き、のどが赤くなり痛みを伴い、口の中に小さな水疱ができます。やがて水疱が破れて、浅い潰瘍ができ痛みを伴います。発熱は2～4日間程度で解熱し、それにやや遅れて口腔内の症状も消失します。

【予防法】

咳などの飛沫感染や、便等の排泄物による接触感染で伝染します。特別な予防法はなく、感染者との密接な接触を避けること、うがいや手洗いをこまめに行うなどです。

また、症状が回復した後も、便中には2～4週間の長期にわたってウイルスが排出されるため、特にトイレやおむつの交換の後は念入りに手洗いや手指の消毒を励行することが大切です。

※参考URL

国立感染症研究所 ヘルパンギーナとは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.htm>